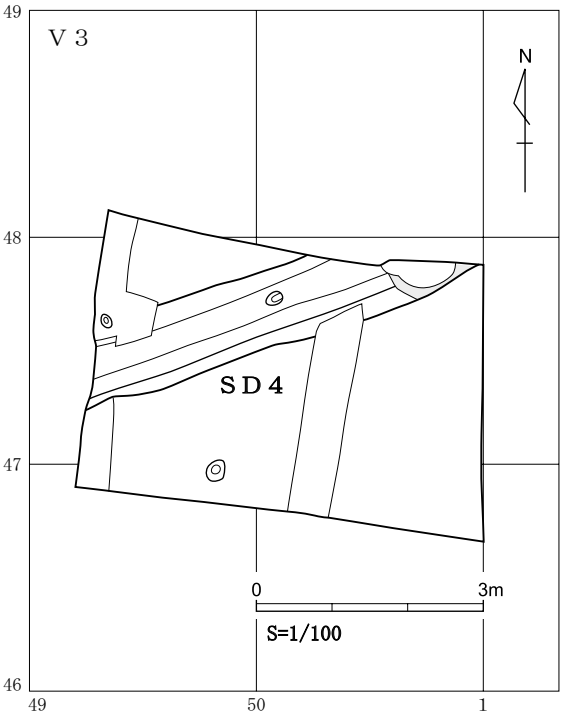
5．1852 次調査報告

遺　跡　名	武蔵国府関連遺跡		
グ リ ッ ド	Ｖ３－６次		
所　在　地	東京都府中市小柳町１－16－４の一部，８の一部		
現地調査期間	令和２年６月４日～令和２年６月11日		
面　　積	18.3㎡	遺物出土量	コンテナ１箱(２袋)
検出遺構	溝１条(Ｖ３－ＳＤ４)　［古墳時代から奈良・平安時代］ ピット３基　［奈良・平安時代］		
調査担当者	西野善勝		
調査従事者	大澤一重(府中市遺跡調査会)，石川太郎・扇田芳嗣・丸岡祝(トキオ文化財(株))		

第 1852-1 図　調査地区位置図 (1/5,000)

１　調査地区の概要

当調査地区は，武蔵国府関連遺跡の白糸台地域に位置し，京王線多磨霊園駅の南東約 150 m，九中通りの約 20 m西に所在する。地形的には府中崖線から約 140 m北の立川段丘に立地し，遺構確認面はⅢ層である。当地区が所在する白糸台地域は府中崖線に沿って古墳群が確認されており，その北側の台地では古墳時代後期の竪穴建物跡が多く確認されている。今回の調査では，古墳時代にさかのぼる可能性がある溝１条が検出された。



第 1852-2 図　調査全体図

２　遺構と遺物

溝１条とピット３基が確認された。

溝

Ｖ３－ＳＤ４　北東－南西に斜行する溝である。両端とも調査区外に及ぶ。規模は，長さ 5.5 m以上，検出面での幅１m～ 1.05 m，底部幅 0.35 m，深さ 0.3 m～ 0.4 mを測る。断面形はＵ字形を呈する。遺物は出土していないが，周辺で古墳が確認されていることと黒褐色土を主体とする覆土の様相から，古墳時代から古代の所産と考えられる。遺物は出土しなかった。

ピット

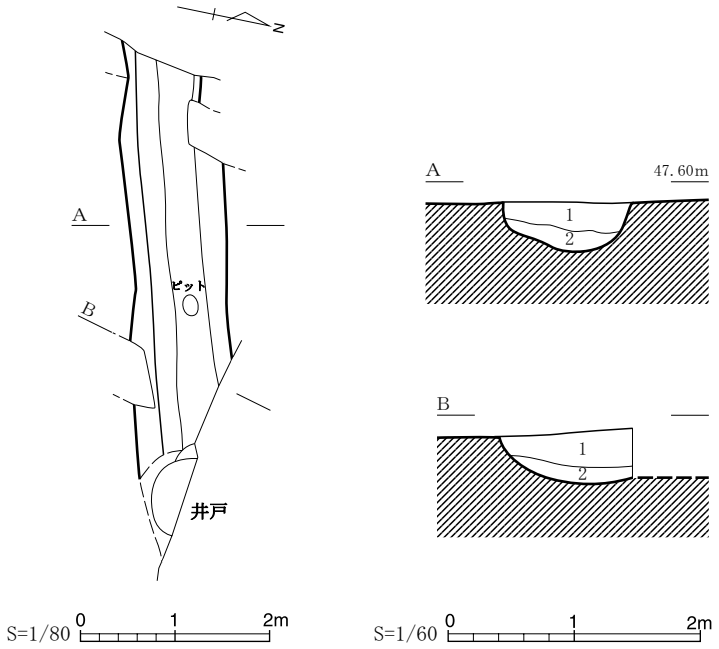
ピットは３基検出された。これらの規模は径約 0.2 m～ 0.35 m，深さ約 0.3 ～ 0.6 mを測る。いずれも暗褐色土を主体とする覆土の様相から古代の所産と考えられる。遺物は出土しなかった。

表土・撹乱からの出土遺物

試掘トレンチ１（ＳＤ４を切る撹乱）から土師器の薄手の甕片１点が出土したが，小片のため図化に至らなかった。

３　まとめ

当調査地区から確認された溝は，検出部分では直線的な平面形状であったため，古墳の周溝と捉えなかった。しかし，当調査地区の東側近接地（177 次調査『概報 33』）では円墳の周溝（Ｏ94 －ＳＺ１）が確認されている。また，今回確認された溝の覆土は，古墳周溝の覆土の主体土として多くみられる黒色系の土であった。したがって，当溝は古墳の周溝でなくとも，古墳時代にさかのぼる遺構の可能性がある。



ＳＤ４	
グリッド	Ｖ３(49 ～ 50，46 ～ 47)
偏向	Ｅ－ 20°－Ｎ。
断面形態	Ｕ字形。
規模	長さ 5.50 ｍ以上×幅 100 ～ 105 ㎝×深さ 30 ～ 40 ㎝。
備考	東･西側は調査地区外。中央部でピット，北東部で現代の井戸，西側と南東部で撹乱に切られる。

第 1852-3 図　Ｖ３－ＳＤ４実測図

Ｖ３－ＳＤ４　土層説明
1. 黒褐色土　Ⅲ層土を微量混入。ローム（極小粒）を少量，赤色スコリア（極小～小粒）を少量含む。締まり普通。
2. 黒褐色土　Ⅲ層土ブロック（30 ～ 40mm）を少量。ローム（極小粒）を微量，赤色スコリア（極小～小粒）を微量含む。1層に比べ，やや柔らかい。

第 1852-4 図
Ｖ３－ＳＤ４全景（西）